

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立鳴和中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0804
金沢市鳴和 2-10-60

E-mail naruwa-j@kanazawa-city.ed.jp
Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/naruwa-j/>

幼児児童生徒数 男子 246 名 女子 217 名 合計 463 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は「ふるさと金沢を愛し、誇りを持ち、未来へ」を活動テーマとしながら、ESDを未来までこの地球を持続するために何ができるのかという教育と捉え、全校がESDの実践を通して、多面的・総合的に考える力を育むことを目標としている。そのために(1)総合的な学習の時間の取組、(2)環境問題への取組、(3)人とのつながりに関する取組を行っている。

(1) 総合的な学習の時間の取組

本校では、主に総合的な学習の時間を使って、ふるさと金沢についての学びを深めている。

1年生は、ふるさと金沢の「歴史を知る」というテーマで課題設定を行い、課題解決学習をしてきた。

伝統文化・伝統産業・偉人・観光・食文化の5つの分野に分かれ、そのテーマに基づいた課題を設定し、実際に見学やインタビューを行いながら、金沢の歴史について深く知ることができた。

2年生は、ふるさと金沢の「現在を知る」というテーマで課題設定を行い、課題解決学習をしてきた。

金沢の景観に注目しながら、どんな街づくりがされているのかを、見て回った。

3年生では、金沢の施策を世界と比較しながら、「未来への提言」というテーマで、今後どんな取り組みをするべきかを考え発表を行った。

(2) 環境問題への取組

①エコキャップ収集

エコキャップの収集を通して、普段ゴミとして捨てられているペットボトル飲料のキャップを回収して、リサイクルするとともに、その売却益で発展途上国の子どもたちにワクチンを送ろうと考えた。

全校生徒の協力のもと、集めたエコキャップの重さはおよそ186kgであり、93人分のポリオワクチンが買える量であった。

②グリーンカーテンの設置

グリーンカーテンを設置することで、日差しを遮り、校内の温度上昇抑制を図った。1階の保健室の窓側(南向き)に設置することで、日差しを遮ることはもちろん、二酸化炭素の吸収や植物の生長を楽しむ生徒の姿も見られ、環境的にも教育的にもいい効果をもたらした。

③花植えボランティア

7月と11月に校内の自然を増やそうという目的で「花植えボランティア」を募集し、全校で合わせて約120名ほどの生徒が集まり、プランターに花を植えた。また「大きく育てね」などのメッセージを書いたものをプランターに添え、色とりどりの花で学校前が明るくなった。

④エコ活動

整美委員会が「ゴミの量を減らそう」という目的で、各クラスのゴミの量を計測し、最もECOに取り組んでいるクラスを表彰したり、給食委員会が「残菜をなくそう」という目的で、各クラスの給食で出た残菜の量を量ったりした。これにより、生徒は「環境を守るために、ゴミをできるだけ出さないようにしよう」という意識が高まった。

(3) 人とのつながりに関する取組 ～金沢「絆」活動の取組より～

①あいさつ運動

金沢市グッドマナー実践校として、本校では、「あいさつのキャッチボール～いつでも・どこでも・だれにでも・心をこめて」を基本方針として掲げ、あいさつ運動を日常的に行っている。1月26日の鳴和中校区「絆」活動の日に、小中一貫教育の取り組みの一つとして、夕日寺小学校、森山町小学校、浅野町小学校、さらに小坂小学校に中学生が出向いてあいさつ運動を行った。また、生徒会執行部、リーダー会が中心となって玄関でのあいさつ運動にも取り組んだ。

②ごみ拾い

7月28日に行われた金沢「絆」活動では、地域や保護者の方も参加して避難場所の清掃を行った。これにより、地域をきれいにすることで自分たちの生活環境の保全へと意識が高まった。その後、学校までの避難経路を確認し、防災教育を実施した。



(1) 歴史を知る



(2) グリーンカーテン



(3) ごみ拾い

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

いいね金沢 (金沢市のホームページ)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

主に総合的な学習の時間に位置付けている。総合や社会、理科といった教科横断的な見通しをもったつながりある学習を行っている。

1年生は、ふるさと金沢の「歴史を知る」というテーマで課題設定を行い、課題解決学習をしてきた。伝統文化・伝統産業・偉人・観光・食文化の5つの分野に分かれ、そのテーマに基づいた課題を設定し、実際に見学やインタビューを行いながら、金沢の歴史について深く知ることができた。

2年生は、ふるさと金沢の「現在を知る」というテーマで課題設定を行い、課題解決学習をしてきた。金沢の景観に注目しながら、どんな街づくりがされているのかを、見て回った。

3年生では、金沢の施策を世界と比較しながら、「未来への提言」というテーマで、今後どんな取り組みをするべきかを考え発表を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

委員会ごとに重点的にESDに取り組む月を決め、委員会がそれぞれに考えた目標に向かって、全校生徒が行動をしている。

例えば、整美委員会では、環境の分野で各クラスのゴミの量を計測し、どのくらいのゴミがあるのか、どうやってゴミを減らしていくかなどを考えている。

また図書委員会では、人権の分野で思いやりの心を育てるために、心が温まる本を全校に紹介するリーフレット作りを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

生徒を対象とした年に2回のアンケートでは「ユネスコスクールという言葉を知っているか」という問いには81%→90%、「ESDという言葉を知っているか」の問いには58%→67%という結果を得た。しかし「ユネスコスクールという言葉の意味を説明できますか」の問いには2%→6%で、「ESDについて説明できますか」の問いには、8%→10%という結果を得た。この結果から、言葉についての周知は広がったといえるが、まだまだ説明することができず、具体的にどう動けばいいかわかっていない状態だと感じられる。来年度は、ユネスコスクールというものを、もっと生徒の身近なものに感じられるよう、日常の学校生活や各教科の授業や活動と結びつけていきたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

校内の掲示や全校集会で、金沢市内のユネスコスクールこどもサミットにおける新聞の作成においてESDの活動成果を発信をすることができた。

総合的な学習の時間における「ふるさと金沢」の歴史・現在・未来を考える取り組みや、あいさつ運動やエコ活動などの成果を挙げ、一年の活動を振り返ることができたと同時に、まだまだ実践できていない実態を再確認することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は吹奏楽部が医療施設を訪ね、演奏会を行うなどして、人権の分野で活動を行うことができた。高齢者の方と音楽に触れ、交流することで人としてどうあるべきかを考えることができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は金沢市内の小中学校の生徒同士で行われるユネスコスクールこどもサミットが雪のために中止になり、交流することができなかった。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

生徒や教員が一丸となって、環境を保全するために何ができるかを考えたり、行動したりすることで、未来像を予測しながら計画する力を育成することができた。
また、地域と密着しながら、あいさつ運動やゴミ拾いをする中で、地域とのつながりを尊重したり、地域を大切にしていこうとしたりする態度が身についた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

一人一人がユネスコスクールの一員としての自覚を持ち、責任をもって行動できるようにしていく。

そのためにまずは、ユネスコスクールとして学校全体で取り組むこと、一人一人が取り組むことをしっかり明示する必要がある。

委員会ごとの活動や生徒会を中心にした活動を取り入れていく中で、意識を高めさせていきたい。

また地球のことをよく知らなければ、自分のやるべきことも見いだせないのので、金沢、日本、地球の諸問題や課題を知り、知識をつけていく必要がある。そのために、総合的な学習の時間だけではなく、理科や社会などの教科と連携し、教科横断型の学習を進めていかなければならない。